

2021年10月24日 主日礼拝

説教題「見よ、わたしは新しい事をなす」イザヤ書 43 章 16～21 節

主任牧師 加藤 誠

「見よ、わたしは新しい事をなす。やがてそれは起こる。あなたがたはそれを知らないのか。わたしは荒れ野に道を設け、さばくに川を流れさせる」(イザヤ43章19節 口語訳) 新共同訳1131ページ

- ・新しい礼拝堂の二階の入り口前に大谷松枝先生が書かれた「見よ、わたしは新しい事をなす。やがてそれは起こる」の書が掲げられています。
- ・この書は、前の礼拝堂の入り口にも掲げられていたものですが、新しい礼拝堂の白い壁に金色の額が映えて、まるでこの礼拝堂のために書かれたかのように生き活きと迫ってきます。
- ・「見よ、わたしは新しい事をなす」。
- ・このイザヤ書 43 章の御言葉において、主なる神は大井バプテスト教会の私たちに何を語りかけておられるのでしょうか。
- ・イザヤ書 43 章は、バビロン帝国に敗北して捕われの身になり、異国の地で希望のない日々を送っているイスラエルの人々に向かって語られた言葉です。
- ・彼らは惨めな敗北感に打ちのめられていました。
- ・しかも、その敗北は他人のせいではなく、自分たちが神に対して罪を犯した結果であり、深い後悔と情けなさの中に沈んでいるイスラエルに向けて、これらの御言葉が語られたのです。
- ・1 節「ヤコブよ、あなたを創造された主は／イスラエルよ、あなたを造られた主は／今、こう言われる。恐れるな、わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの。わたしはあなたの名を呼ぶ。」
- ・自業自得。
- ・自らの不信仰のゆえに招いた惨めな敗北に沈んでいる者たちに、
- ・しかし主なる神は「わたしはあなたを贖う。あなたはわたしのもの」と呼びかけます。

・10月から9か月ぶりに分散礼拝が始まり、ひさしぶりに集い合って教会の友の顔を見ながら礼拝できる幸いをひしひしと感じています。

・その中で、主の日の礼拝は、神さまが私たち一人ひとりに招待状をイエス・キリストを通して届けて下さり、招き入れてくださっている神の国の食卓であることを聖書から聴いてきました。

・この礼拝に招かれている者たちは、先週一週間、信仰者として立派に信仰生活を送ったから、そのご褒美として招かれた者たちではありません。

・「あなたは神を愛し、隣り人を自分のように愛したか？」と問われたならば、下を向いて、いくつも胸の痛いことを思い出さざるを得ないような者たちにすぎない。

・にもかかわらず、そういう一人ひとりを「あなたはわたしのもの」と呼んでくださっている方の招待を受けて、この礼拝にあずかっているのです。

・主イエスが徴税人の頭であるザアカイの家に入った時、人びとは「なぜあんな男の家の客となるのか？」と非難しましたが、

・それでも主イエスは「この人もアブラハムの子だから」と言われて、ザアカイと一緒に神の国の喜びの食卓を囲まれました。

・ただし、そのために主イエスはユダヤ教指導者たちの怒りを招いて十字架につけられて行きます。

・その意味で、主イエスのご自分の命を危険にさらしながらも、ザアカイを神の国の食卓に招かれたということです。

・イザヤ43章1節で「恐れるな、わたしはあなたを贖う」と言われている「贖う」とはそういうことです。

・イスラエルの民を神の国の食卓に招くために、神はどんな高価な犠牲をもいとわない。

・だから「恐れるな、わたしはあなたと共にいる」（同5節）と語りかけるのです。

- ・「恐れるな」。
 - ・これは、旧約・新約を貫いて繰り返し神さまが私たちに語りかけている言葉です。
 - ・私たちは恐れます。
 - ・力を失うこと、失敗すること、人びとの言葉、うわさ。
 - ・あるいは一人だけ取り残されたり、多くの人とは別の道に行くことなどを恐れます。
 - ・多くの人々がもっているものを自分も持ち、多くの人々が歩いている道を歩いていると、何となく安心する。
 - ・そうして、この世の「成功」と呼ばれるものを手に入れることに腐心している。
-
- ・けれども、そういう「見えるもの」ではなく「見えないもの」に目を注ぎなさい。
 - ・これが聖書のメッセージです。
-
- ・神さまからいただいた命のありようは一人一人違うし、その人生の色どりもいろいろ。
 - ・一番大切なことは人が語る「成功」とか「不幸」という評価にとらわれず、どんな時も、どんな状況においても、「共にいてくださる神さまの愛につながっていくこと。
 - ・その愛を両手で大切に感謝して受け取り、隣り人と笑顔と希望を分かち合っていくこと」。
-
- ・だから、どんな時も、どんな状況においても、「恐れるな、あなたはわたしのもの、わたしが共にいる」という神さまの語りかけを聴いて歩む。
-
- ・そのとき 19 節の「荒れ野に道が敷かれて、砂漠に大河が流れる」ことが起こっていくのです。
 - ・どんな荒れ野に見える厳しい状況も、神さまが共に歩んでくださる道となり、草木など生えないと思われる砂漠に花が咲いていく。
 - ・それが、神さまの言われる「見よ、わたしは新しい事をなす」の「新しい事」なのです。

・「新しい事」とは、一人ひとりの人生を、どんな時も、どんな状況でも共に歩んでくださるイエス・キリストが起こしてくださる「幸いの出来事」のこと。

・聖書が一人ひとりに届ける「幸いの出来事」を広く、周りの方々にお伝えして、毎週の主の日の礼拝にお招きしていくこと。それは私たち教会の大切な働きです。

・新しい礼拝堂に、池上通り側から直接入ることのできる玄関ができて、道行く人が時々、掲示板をのぞき込んでいかれます。

・10月に分散礼拝が始まって、日曜日の礼拝にはじめて出席される方も続けて起こされています。

・先週先週の執行委員会では教会学校再開のことが熱く語り合われました。

・幼稚園は今日から園児たちを2グループの分散で受けていくことになりましたが、

・できるだけ早く保護者の方々をまた礼拝に招きたいと祈り願っています。

・コロナがまだ続く中で、教会学校、第一礼拝をどう考えていくべきなのか。

・教会を訪ねてくださる、いろいろな方々をお迎えしていくのは、「他のだれか」ではなく、教会員一人ひとり、「わたし」に託されている大切な働きです。

・「見よ、わたしは新しい事をなす。やがてそれは起こる」。

・この御言葉が語るとおり、これまでも大井教会の上に豊かな恵みと憐れみの御業を起こされてきた主が、この新しい建物を通してどのような御業を起こされるのか。楽しみです。

・ただ、主が起こされる「新しい出来事」を喜び、受けていくためには、私たち自身が主イエスの福音によって、毎週、新しい力をいただいきたいのです。